

2022年度業務実績報告書

提出日 令和5年1月19日

1. 職名・氏名 教授・法木 左近2. 学位 医学博士（甲）、専門分野 病理学、授与機関 福井医科大学、授与年 1990年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 医学概論（2単位） 1年
②内容・ねらい	内容：社会福祉士として必要な人体の構造と機能および疾病について、医学の学問体系に沿って解説した。具体的には、骨学、筋肉学、組織学、解剖学、そして病理学として炎症、循環障害、腫瘍などを分かりやすく説明した。 ねらい：社会福祉士国家試験に回答できるようになること、クライアントの病気について医学書やネットで調べたときに記載内容が理解できること、そして、社会人の医学リテラシーとしての医学知識を得ること、である。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫	百聞は一見に如かずのとおり、視覚教材を多く取り入れた。身近な話題や映画・文学などと関連づけて説明した。また、集中力の途切れるころには、私の海外留学や海外出張（イタリアなど）の画像などを挟むことによって興味を持続させた。
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 導入ゼミ（1単位） 1年
②内容・ねらい	内容：「アカデミック・スキルズを修得する」の講義名のとおり、この授業では、各自が課題（テーマ）を設定し、調べる、読む、書く、発表するの4つのスキルズを体験し、学ぶ。 ねらい：授業目標としては、 ・問題提起となるテーマ、課題を見出すことができる ・パワーポイントを用いて分かりやすく発表することができる ・簡潔なレジュメ（抄録）を作成することができる ・他人の発表を聞き、討論することができる
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫	各自の自己紹介では「偏愛マップ」を作成してもらい、それをもとに発表してもらった。また、「ビブリオバトル」や「読書会」を実施し、本を読むことを促した。
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 病気・人間・社会（2単位） 1年
②内容・ねらい	内容：最初の5回は道信が担当し、健康、病気、治療と文化とのかかわりについて解説し、グローバルな環境における健康の課題について考察する。後半10回は法木が担当し、病気について理解を深めるとともに、病気をもつ人間全体について理解する。病気の理解については、医学概論IIといった位置づけでの授業である。具体的には、先天異常と染色体異常・遺伝病、小児の発達、NIPTについて、脳卒中、認知症、神経変性疾患、老年医学、障害（生活機能分類）などを分かりやすく説明した。 ねらい：社会福祉士国家試験に回答できるようになること、クライアントの病気について医学書やネットで調べたときに記載内容が理解できること、そして、社会人の医学リテラシーとしての医学知識を得ること、である。

<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 百聞は一見に如かずのとおり、視覚教材を多く取り入れた。身近な話題や映画・文学などと関連づけて説明した。また、デジタル授業のひとつとして、疾患の病理組織標本のバーチャルスライドを用いた実習を行い、疾患の理解を深めた。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 入門演習（1単位） 1年</p>
<p>②内容・ねらい 内容：卒業論文を執筆するための文献の検索法や論文・レポート作成法、プレゼンテーションの技術などを説明し、各自が課題を設定しそれに対して、調べたことや考察を発表してもらい、また、論文レポートにまとめて提出してもらった。また、皆で意見を出し合うことの技術、ブレインストーミングを行い、介護士応援のキャッチフレーズに応募した。 ねらい：今後の論文・レポート作成の基礎として、文献を検索できるようになり、それをもとにある程度まとめた文章を作成すること、および人前で発表することを目的とした。また、多くの人と意見を出し合うことも経験してもらう。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 文献検索や論文レポートの書き方など基礎的な内容は講義形成で説明するが、それ以降は各自が実際にできるように時間に余裕も持たせた。また、ブレインストーミングでの成果は、老人福祉施設協議会主催のコンテストに応募するなどアウトプットを意識した。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究（4単位） 4年</p>
<p>②内容・ねらい 内容：教員の研究分野に関わらず学生の興味ある分野について可能な限り指導した。特に、研究テーマ、学問的な問い、先行文献の検索、研究の方法論、論文の執筆について指導した。具体的には、1名の学生の卒業研究論文「発達障害における二次障害の防止についての考察～事例検討を通して～」を指導した。 ねらい：今後の社会にでも、論文・レポート・報告書などの作成の基礎として、文献検索・評価・構成などができ、それをもとにまとめた文章を作成すること、および人前で発表することを目的とした。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 4年生であり、就職活動も並行して行っているため、時間的な束縛は極力無くし、学生の主体にまかせ、困った点などの解決方法について指導・支援を行った。また、論文の構成や文章の校正については細かく指導した。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 病態生理学（2単位） 2年（看護学科）</p>
<p>②内容・ねらい 内容：先天異常、遺伝疾患、染色体異常、多因子遺伝、壊死、変性、萎縮、蛋白質代謝障害（ネフローゼ症候群、尿毒症）、糖尿病、黄疸、循環障害および充血、うっ血、虚血、血栓、塞栓、梗塞、DICなどの用語の理解、炎症論、免疫とは、感染症、腫瘍総論など ねらい：看護師国家試験に回答できるようになること、病院内での患者に関する情報交換の内容が理解できるよう医学用語を正しく理解すること、患者の病気について医学書やネットで調べたときに記載内容が理解できること、そして、社会人の医学リテラシーとしての医学知識を得ること、である。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 百聞は一見に如かずのとおり、視覚教材を多く取り入れた。2020年度はコロナのため顕微鏡実習ができなかったが、例年、1、2回の顕微鏡実習を取り入れ、炎症細胞や腫瘍細胞を観察する。講義では、集中力の途切れるころには、私の海外留学や海外出張（イタリアなど）の画像などを挟むことによって興味を持続させた。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 保健・福祉研究方法論（2単位） 大学院1年</p>

②内容・ねらい

内容： 研究の意義となりたち、研究における概念、変数について、実験的研究と非実験的研究、量的研究と質的研究、文献の検索とクリティーク、統計的な方法など

ねらい： 研究をしていくうえでの基本的な用語や概念などの習得と、自身の研究へ活かせるようになること。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

自分自身の研究についても説明し、研究の具体的な像を示した。学生の人数も少ないので、気楽に質問ができるように質問タイムを多く設けた。学生の研究目的になるべくあった内容を心掛けた。「インタビュー」および「混合研究法」に関しては、専門家である看護学科の成田先生、社会福祉学科の道信先生に講義をお願いした。

(2)その他の教育活動

内容

1. 社会福祉学科の大学院生のサポート教員として、サポートした。
2. 福井大学医学部附属病院にて、隔週火曜日、研修医（病理学専攻医）に対して、附属病院内の病理標本の診断内容について指導した。（2022年3月まで）

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書・監修	【0本】
②学術論文（査読あり）	
* 1. Diagnostic clue for dermatophytoma using the dermatophyte test strip. H. Ishida, S. Noriki, T. Mochizuki. <i>J Dermatol.</i> 2022; 00: 1-2. https://doi.org/10.1111/1346-8138.16619	【1本】
③その他論文（査読なし）	
* 1. 2022年のオートプシーイメージングの動向 オートプシーイメージングと病理学 <u>法木左近</u> 、丸山力哉、江端清和、稲井邦博 <i>Rad Fan.</i> 2022; 20 ; 66-69. (メディカルアイ)	
2. AiからAIへの展開を可能とする必須条件とは～人と人を結ぶ縁（えにし）に恵まれて～ 稲井邦博、宇野美雪、 <u>法木左近</u> <i>Rad Fan.</i> 2022; 20 ; 15-20. (メディカルアイ)	【2本】
④学会発表等	
* 1. 第121回日本皮膚科学会総会 2022.06.02-05.. (京都市・国立京都国際会館) 教育講演3 白癬菌抗原キット：過去（開発の経緯とイノベーション） <u>法木左近</u> 、石田久哉	
2. 第121回日本皮膚科学会総会 2022.06.02-05. (京都市・国立京都国際会館) 教育講演3 白癬菌抗原キット：現在と未来（臨床的意義と活用方法） 石田久哉、 <u>法木左近</u>	
3. 第111回日本病理学会総会 2022.04.14-16. (神戸市・神戸コンベンションセンター) ホルマリン固定脳のMRI画像を用いた胃癌髄膜癌腫症の病理学的解析 宋 美紗, 伊比井 崇向, 木村 勇人, 福田 春樹, 萩原 章, 荻山 秀治, <u>法木 左近</u>	【3件】
⑤その他の公表実績	
1. 令和3年度 調査研究・啓発事業等 報告書 (NO.16) p.105-114. 一般財団法人一般医薬品セルフメディケーション振興財団 (2022年7月)	【1本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】	
1. 科学研究費 基盤研究 (B) 「低侵襲ロボット支援解剖と人工知能 (AI) を活用した医療関連死解析法構築」 分担研究者 (令和2年度から令和6年度)	
【学内】	
4. 戦略的課題研究推進支援「白癬菌抗原キットのための検体採取法の検討と動物白癬症の診断への応用」(令和4年度～令和5年度)	
(3)特許等取得	

(4)学会活動等

1. Ai (オートプシーイメージング) 学会 理事
2. 日本病理学会 学術評議員

5. 地域・社会貢献活動

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

1. 動物実験委員会 委員 (令和2年4月から)
2. 衛生委員会 委員 (令和2年4月から)
3. 保健管理センター運営会議 委員 (令和2年4月から)
5. 入試 救護医 (令和4年1月16日、2月25日、3月12日)
6. コロナワクチン職域接種の問診業務 (令和4年2月17日、12月19日、20日)
7. 大学院博士課程設置ワーキンググループ (令和3年9月から)
8. 大学院健康生活科学専攻科入試委員 (令和4年12月から)

(3)学内行事への参加

1. 社会福祉研究セミナー2022 (令和4年11月13日)

(4)その他、自発的活動など

1. 県立大学&福井大学研究連携交流会 (令和4年10月、12月)